

JPNIC

第68回・69回 総会報告

2021年度事業計画・収支予算

2020年度事業報告・収支決算

2021年3月の総会では2021年度事業計画・収支予算が、6月の総会では2020年度事業報告・収支決算が会員の皆さまに承認されました。本稿では、2021年度事業計画・収支予算、2020年度事業報告・収支決算についてご紹介します。

第68回JPNIC臨時総会(2021年事業計画・収支予算)^{※1}

2021年度事業計画

ここでは、2021年度にJPNICとして注力したいポイントを記載します。

JPNIC全体に関わる事項

ほぼ例年通りですが、特筆すべき点は、下記3点となります。

- 感染症禍に伴う世界的な変革やSDGsに向けた世の中の変化に対応して、より積極的な情報発信や総会や各種イベントによる交流のあり方の見直し等に取り組みます。
- 現行の4部体制を維持しつつ、組織の活性化や人的資源配分の見直しを行っていきます。
- 多様な働き方への配慮等社会の要請を踏まえつつ、業務運営のさらなる効率化に努めます。

IPアドレス事業

下記3業務に注力してまいります。

- 新規IPv4アドレス分配終了を控えた対応の検討と、今後のレジストリとしての役割や事業の評価軸を明確にするほか、業務の電子化を踏まえIPv4アドレス手続き等の見直し、未利用IPv4アドレスの活用策とIPv6普及促進に向けた情報提供を行います。
- RPKIサービス提供体制の整備を進めると同時に、APNICやNIR間の相互連携強化を行い、RPKI運用の高度化を推進します。
- IPv4アドレス関連の議論を喚起してAPNIC 52(2021年9月)に向け国内コミュニティからの参画を促進するほか、WHOIS正確性向上に関する検討を踏まえ、コミュニティと連携して実装を進めます。

インターネット基盤整備事業

- 感染症禍によるオンラインでの情報収集需要の増加を受け、各種メディアでの情報発信を強化するとともに、紙媒体の会報誌についてもオンラインでの閲覧環境強化に取り組みます。
- イベント、セミナーなど普及啓発活動全体の新常态を踏まえた新たな取り組み方を検討し、実践を通じて構築していきます。
- 2020年度に実施した国内における国際標準化に関する調査研究の成果を踏まえた次の段階の活動を計画・実施するほか、ROAを使った経路の検証(ROV)やBGPパス検証に関する調査研究、ドメイン名の不正利用についての対応策対応体制構築に関する調査研究などを行います。
- Japan IGFの体制整備に加え、2023年に開催予定のIGF日本会合に向けた国内推進体制構築に積極的に参画していきます。

2021年度収支予算

事業計画を実行するための予算で、収支はほぼ均衡となっています。

2021年度予算と前年度予算の比較は次の通りです。

経常収益予算

512,470,000円 (前年度比 -13,490,000円)

当期経常増減額

28,230,000円 (前年度比 +3,610,000円)

経常費用予算

540,700,000円 (前年度比 -17,100,000円)

正味財産期末残高

1,989,780,000円 (前年度比 +28,300,000円)

会員の皆さまにお諮りした結果、2021年度事業計画、2021年度収支予算とも、上記の内容にて承認可決されました。



講演会「日本のインターネットの特徴」

総会に続きまして、当センター理事長である後藤による瑞宝小綬章受章を記念すると同時に、日頃よりJPNICを支えてくださる皆様への感謝を申し上げるべく、講演会を開催しました。動画を公開していますので^{※2}、今後のインターネットを考えるきっかけともなるものとして、多くの方にご覧いただければ幸いです。

※1 第68回総会(臨時総会)資料・議事録
<https://www.nic.ad.jp/ja/materials/general-meeting/20210319/>

※2 JPNIC理事長 後藤滋樹 瑞宝小綬章受章講演会「日本のインターネットの特徴」
https://www.youtube.com/watch?v=Yyp_vpLOtiU

第69回JPNIC通常総会(2020年事業報告・収支決算、新役員選任)^{※3}

ここでは2020年度に実施した事業の内容に関して、ポイントとなる点を列挙する形で記載します。
事業報告書では、グラフや写真を織り交ぜつつ読みやすくまとめているので、総会資料も併せてぜひご覧ください。

2020年度事業報告

JPNIC全体に関わる事項

- 法令、定款等に則り、総会で承認された事業計画、収支予算に沿って2事業体制を継続し、安定的な法人運営を行いました。また、総会2回、理事会6回、評議委員会2回を開催し、総会はオンライン配信を実施しました。
- ワークフローの電子化をコロナ禍の中で加速し、在宅勤務比率は年間を通じて7~8割とするなど、社会の要請に応じた働き方を追及しました。
- 2021年3月末現在の会員数は180会員となりました。

IPアドレス事業

- 契約料、手数料の請求書・各種見積書の電子化を完了し、契約書面のPDF送付や必要書類の一部廃止を実現しました。
- WHOIS登録情報の正確性向上に関する実装を行い対応計画を立案し、実装案に関するアドバイザーチームからの意見収集を実施しました。
- Abuse対応担当者コミュニティ会合に参加しBoF開催について協力したほか、コミュニティメンバーからのWHOIS登録情報の正確性向上に関する実装案、計画への意見収集を実施しました。

インターネット基盤整備事業

- ニュースレターのリニューアル実施に併せてJPNICブログと連携した新コーナーを設置したほか、社会情勢を受けてバックナンバー公開を前倒しました。また、Twitterによる情報発信とYouTubeでの動画を利用した発信を実施しました。
- 技術セミナーを全講座無料でオンライン開催に切り替えて実施したほか、ベーシックな内容はJPNICのYouTubeチャンネルにも掲載しました。また、Internet Weekを全セッションオンラインで提供しました。
- グローバルな標準化の観点に着目した状況調査を行い、コミュニティのイベントに複数参加してのフィードバックを実施しました。また、ドメイン名電気通信役務に係る国内外動向調査、海賊版サイトのドメイン名への対応に関する調査研究を実施しました。
- 国内外の重要政策に関する動向把握、情報提供を実施しました。

2020年度収支決算

収益が大幅に減少していますが、前年度は大型の受託研究収入と保有株式の記念配当という特殊要因があったため、そういった要素を除くと700万円ほどの減収に留まっており、収支共に減少したInternet Week等のイベントのオンライン化が主要因となっています。費用も大幅に減少していますが、これはコロナ禍による出張停止やイベントのオンライン化に加え、退職者に伴う人件費の減少に起因するものです。結果としては、2019年度に近い水準となりました。正味財産期末残高については、2020年度末でほぼ21億円と十分な水準を維持しています。

経常収益予算

560,990,729円 (前年度比 -58,560,901円)

経常増減額

105,536,996円 (前年度比 +83,834,748円)

経常費用予算

505,365,794円 (前年度比 -54,840,786円)

正味財産期末残高

2,099,341,596円 (前年度比 +101,177,902円)

会員の皆さまにお諮りした結果、2020年度事業報告、2020年度収支決算とも、上記の内容にて承認可決されました。



「JPNICトークラウンジ」

今回の総会後の講演会では、新企画「JPNICトークラウンジ」の第1回配信を行いました。第1回のゲストは村井純氏で、「世界中のコンピュータをつなげる」という大志を抱いたきっかけや今後の展望、デジタル社会実現に向けた意気込みを伺いました。JPNICのYouTubeチャンネル^{※4}でも公開していますので、当日お聞きになれなかった方等もぜひご視聴ください。

※3 第69回JPNIC総会(通常)の資料・議事録
<https://www.nic.ad.jp/ja/materials/general-meeting/20210614/>

※4 YouTube JPNICチャンネル
<https://www.youtube.com/channel/UC7BboGLudn77sxQml5VoPw>